

2016年3月期 第2四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2015年10月30日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。



表紙の右イメージ図は、1912年、アンリツの前身、安中電機が製作した元祖スマホとも呼ぶべきTYK無線電話機です。

(ノート部記載なし)

目次

I. 2016年3月期第2四半期 業績概要

I - 1. 事業概要

I - 2. 連結決算概要

I - 3. 2016年3月期 通期業績予想（連結）

II. その他

II - 1. T&M事業 事業機会と取り組み

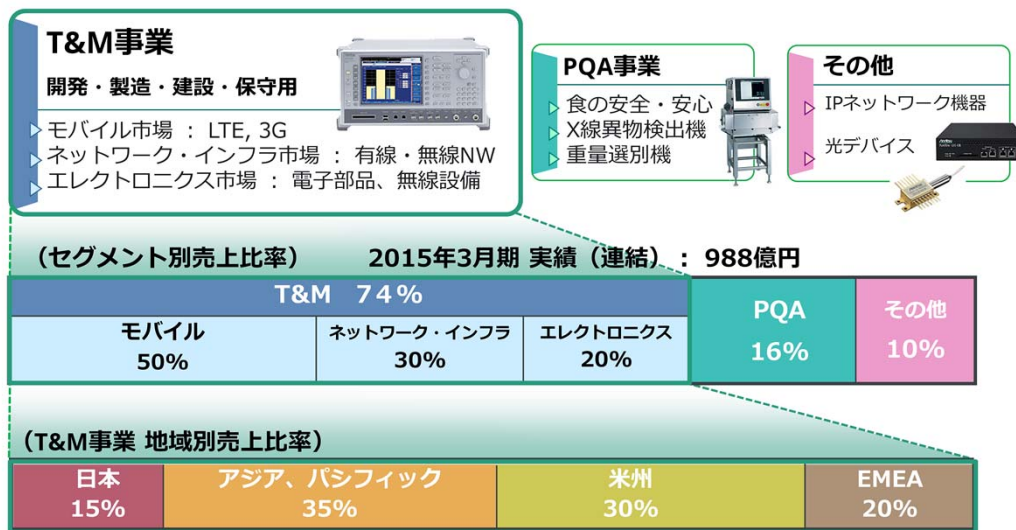
II - 2. PQA事業 グローバル展開に向けた取り組み

II - 3. コーポレートガバナンス

Appendix

(ノート部記載なし)

I - 1. 事業概要



T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

I - 2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

セグメント	2016年3月期第2四半期（4月-9月）の状況
▶T&M：モバイル市場は総じて投資抑制が続く	
モバイル	チップ・端末の大手ベンダーがリストラ実施
NW	光デジタル関連への設備投資堅調
エレクトロニクス	モジュール開発・業務用無線で回復基調
アジア	モバイルのR&D需要は増加するも、製造設備の更改需要は鈍化
米州	通信キャリアの建設投資に抑制傾向
▶PQA：国内コンビニ市場中心に設備投資が増加	

T&M: Test & Measurement

NW: Network Infrastructure

PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

5

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

計測(T&M)事業は、モバイル市場において、全般的に顧客の投資抑制の動きが見られました。その中でも、アジアを中心にLTE-Advanced開発用計測器の需要が増加する一方で、中国端末ベンダーの製造用設備投資に、一層の抑制傾向が見られました。

ネットワーク・インフラ市場においては、光デジタル関連計測器の需要が好調でしたが、北米通信キャリアの建設投資に抑制傾向が見られました。

プロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業は、国内コンビニ市場中心に新製品が設備更改需要を捉え、売上を伸ばしました。また、国内・海外市場での拡販に向けて、研究開発投資と販売促進活動に積極的に取り組みました。

I - 2. 連結決算概要 - 業績サマリー -



スマホ開発・製造ベンダーの投資抑制等で減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	489	478	△ 11	△ 2%
売上高	480	490	10	2%
営業利益	46	32*	△ 14	△ 30%
税引前利益	50	32	△ 18	△ 36%
当期利益	35	24	△ 11	△ 32%
当期包括利益	51	25	△ 26	△ 51%
フリーキャッシュフロー	51	4	△ 47	△ 92%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*リストラ費用約4億円含む

グループ全体の受注高は前年同期比2%減の478億円、売上高は前年同期比2%増の490億円となりました。営業利益は前年同期比30%減の32億円となりました。

第2四半期で、北米と欧州において組織体制の最適化策を実施した結果、営業費用にリストラ費用4億円を計上しています。

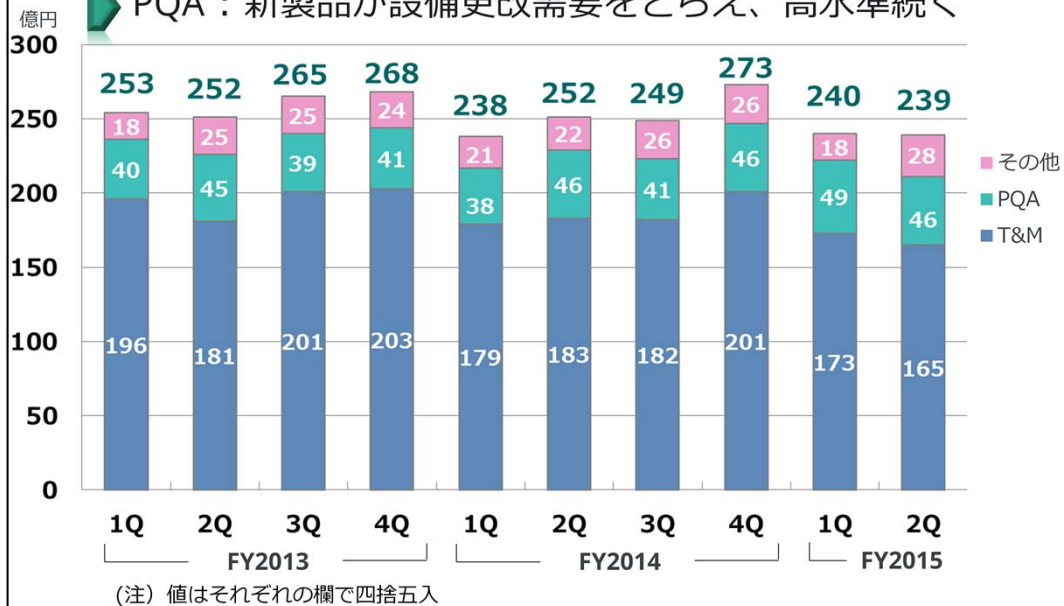
当期利益は、前年同期比32%減の24億円、包括利益は、前年同期比51%減の25億円となりました。

フリーキャッシュフローはグローバル本社棟の建設費用の支払いなどもあり、4億円のプラスにとどまりました。

I - 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

▶ T&M：モバイル市場の投資抑制が続く

▶ PQA：新製品が設備更改需要をとらえ、高水準続く



Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業の第2四半期受注高は、モバイル市場における顧客のリストラ策や中国経済の減速に加えて、北米のキャリアの建設投資抑制もあり、前年同期比10%減の165億円となりました。

PQA事業の受注高は、国内コンビニ市場での新製品の投入効果などもあり、前年同期比1%増の46億円となりました。

I - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	367	359	△ 8	△ 2%
	営業利益	47	32*	△ 15	△ 33%
PQA	売上高	77	93	16	21%
	営業利益	1	6	5	338%
その他 (含：内部消去)	売上高	37	39	2	5%
	営業利益	△ 2	△ 5	△ 3	-
合計	売上高	480	490	10	2%
	営業利益	46	32*	△ 14	△ 30%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*リストラ費用約4億円含む

T&M: Test & Measurement

PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

8

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

T&M事業は減収減益となり、営業利益率は8. 8%となりました。

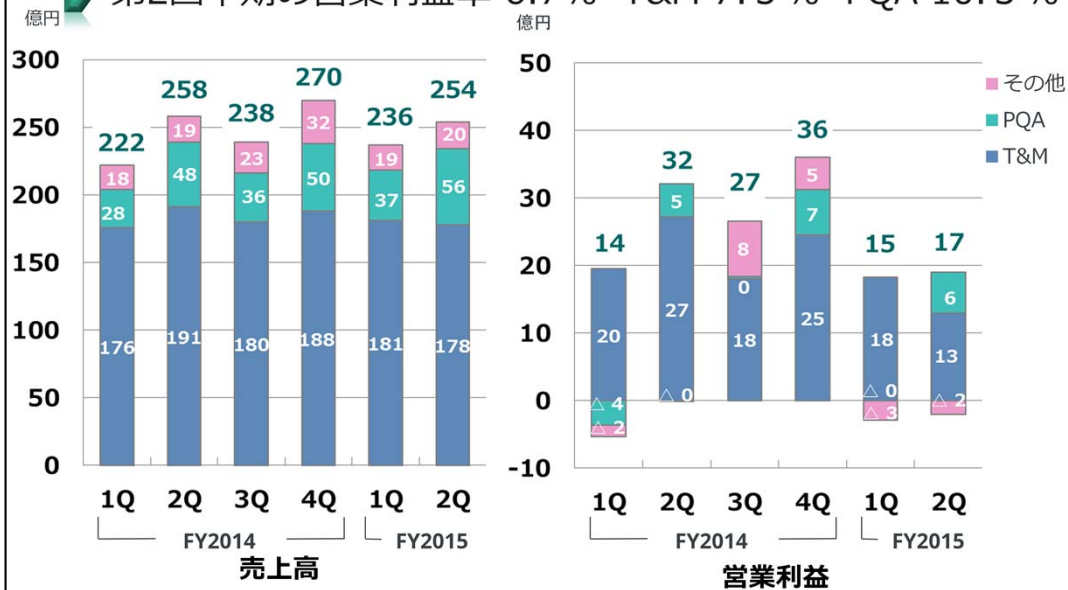
営業利益の減少要因は、売上の減少と費用(販管費と研究開発費)の増加に加え、海外でリストラ費用を計上したことによります。

PQA事業は増収増益となり、営業利益率は6. 2%となりました。

営業利益の増加要因は、国内市場での売上高が伸びたことによります。

I - 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第2四半期の営業利益率 6.7% T&M 7.5% PQA 10.3%



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

第2四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 6.7% (リストラ費用を除いた場合の営業利益率 8.2%)

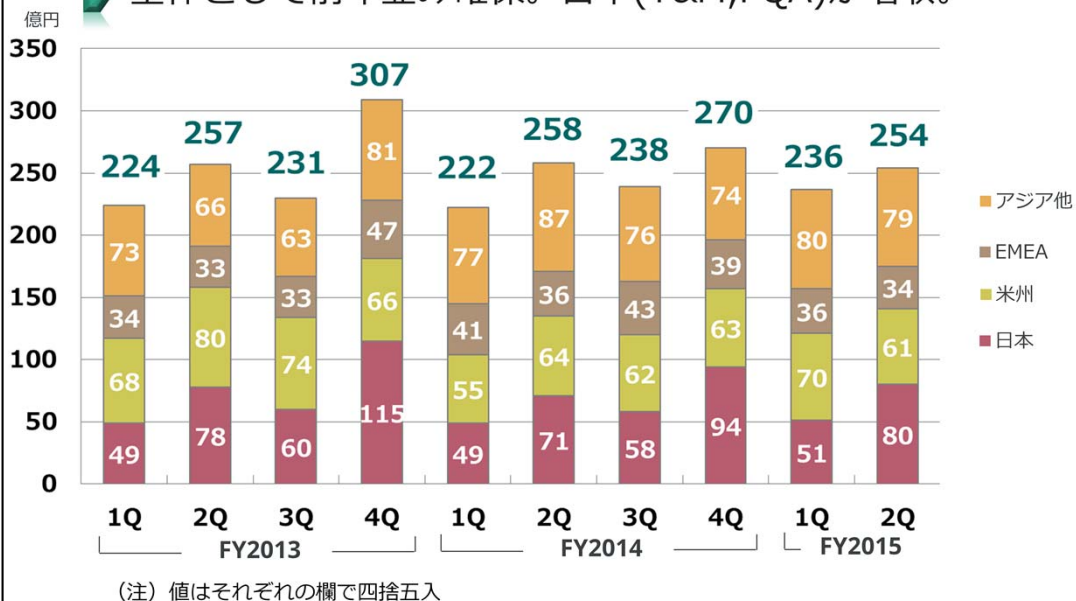
T&M 7.5% (リストラ費用を除いた場合の営業利益率 9.6%)

PQA 10.3%

となりました。

I - 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

全体として前年並み確保。日本(T&M,PQA)が増収。



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

日本市場は前年同期比12%の増収となりました。T&M事業において光デジタル関連への設備投資が回復基調にあるのと、PQA事業において新製品が更改需要を捉え、国内コンビニ市場の売上が増加しています。

アジア市場では、中国端末ベンダーの製造設備投資に抑制傾向が見られ、前年同期比9%の減収となりました。

I - 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -

▶ 営業CFマージン率13%

FY2015 Q2 (累計)

- ① 営業CF : 65億円
- ② 投資CF : △ 60億円
- ③ 財務CF : 41億円

フリーキャッシュフロー

(① + ②) : 4億円

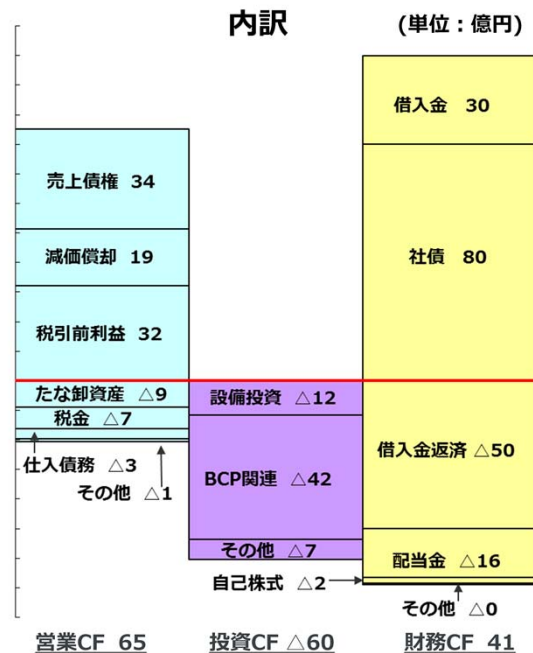
現金同等物期末残高

394億円

有利子負債高

220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に売上債権の回収増により、65億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローの60億円の支出には、厚木サイトの新棟「グローバル本社棟」の建物関連費用42億円の支払いが含まれます。

その結果、フリー・キャッシュフローは4億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは41億円の資金獲得となりました。主なものは社債の発行による80億円(償還期限:2020年6月, 格付けA-)の調達、銀行借入金の返済(ネットで20億円)、配当金の支払い16億円(1株配当:12円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より45億円増加の394億円となりました。

I - 3. 2016年3月期 通期業績予想（連結）

4月開示より変更なし

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		2015/3期	2016/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額 増減率(%)
売上高		988	1,030	42 4%
営業利益		109	110	1 1%
税引前利益		116	109	△ 7 △ 6%
当期利益		79	80	1 2%
T&M	売上高	734	750	16 2%
	営業利益	89	90	1 1%
PQA	売上高	162	180	18 11%
	営業利益	8	11	3 33%
その他 (含：内部消去)	売上高	92	100	8 9%
	営業利益	11	9	△ 2 △ 19%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）想定為替レート：1米ドル115円、1ユーロ=130円

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

2015年度の通期業績の見通しは、4月27日に発表した計画から変更はありません。第2四半期の進捗状況は年初計画から進捗遅れはあるものの、引き続き、達成に向けて組織を挙げて取り組んでいく所存です。

計測事業においては、キャリアアグリゲーションの拡張に代表されるLTE-Advancedの開発投資や、モバイルネットワークのsmallセル化に向けた投資に最適なソリューションを提案し、拡販していきます。

PQA事業は、国内外の堅調な需要を、最適なソリューションの投入で確実に獲得していきます。

Ⅱ．その他

Ⅱ - 1. T&M事業 事業機会と取り組み

Ⅱ - 2. PQA事業 グローバル展開に向けた取り組み

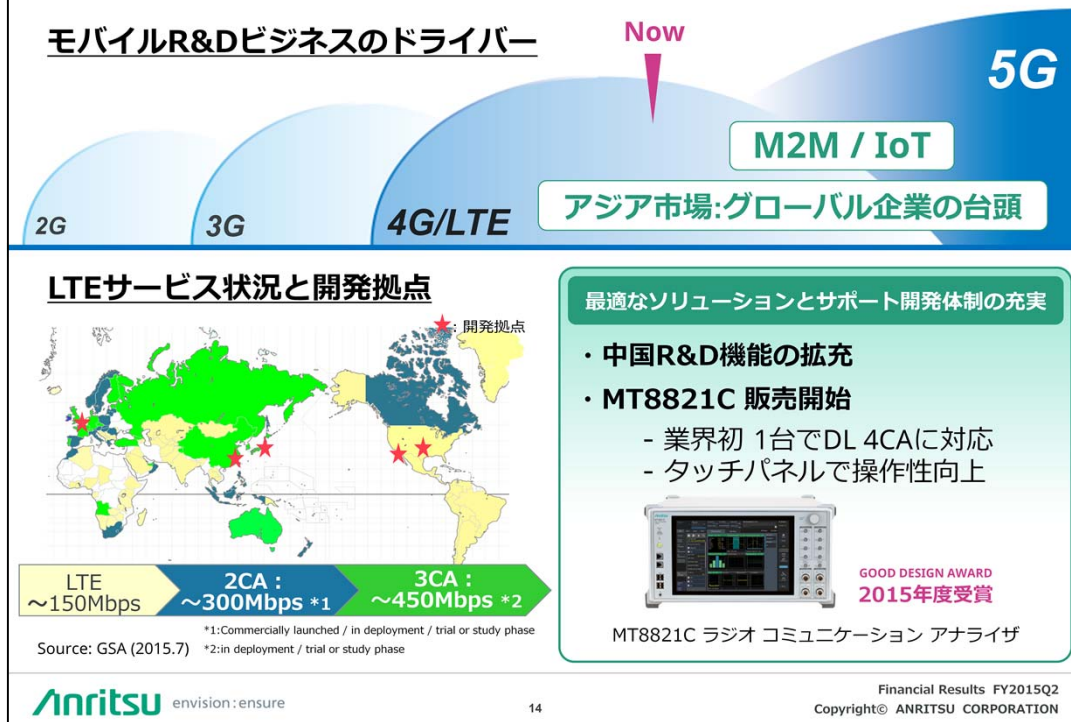
Ⅱ - 3. コーポレートガバナンス

Appendix

(ノート部記載なし)

Ⅱ - 1.事業機会と取り組み (モバイル開発市場)

モバイルR&Dビジネスのドライバー



LTEの普及拡大に伴い成長を続けていたモバイル市場の既存マーケットの設備投資には抑制傾向が見られます。

一方、アジア地域ではグローバルに活躍する新たな企業が台頭してきています。また世界中に広がったLTEネットワークは、新しい社会イノベーションのインフラとして、切れ目なく5Gに向けて進化を続けていきます。

引き続き、最適なソリューションに加えて世界中の4地域に展開するサポート開発体制をコアに、業績及びシェアの拡大に取り組めます。

[当面のモバイル開発市場のドライバー(技術要素)]

①3CA(3キャリア・アグリゲーション) : 3つのLTE電波(周波数帯)を同時に使用する方式。1つの電波を使用する場合と比較して伝送速度が3倍

(150M⇒450Mbps)に向上

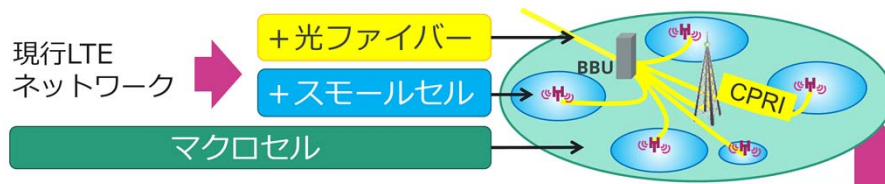
②LTE-U : 免許が要らない周波数帯の電波(5GHz帯)をLTEで活用する方式

③4×4 MIMO : 送信と受信にそれぞれ4本のアンテナを同時に使用する方式。現在使われている2×2MIMOと比較して伝送速度が2倍(150M⇒300Mbps)に向上

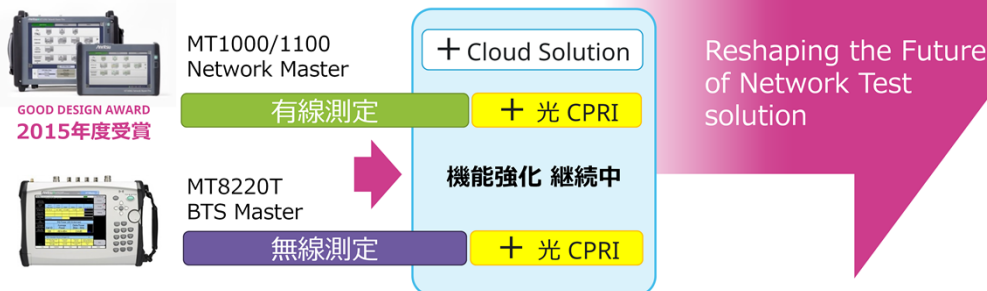
④256QAM変調 : 1つの周波数帯でより高速の伝送を実現する為の変調方式。現在使われている64QAMと比較して伝送速度を約30%(150M⇒200Mbps)向上

Ⅱ - 1.事業機会と取り組み（ネットワークインフラ市場）

大量の接続とデータ容量の増大を支えるネットワークに



ネットワークの革新を テストソリューションの進化で支える



Anritsu envision:ensure

15

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

モバイルデータトラフィックは、爆発的に増加しています。
その通信量を支えるモバイルフロントホウルやその通信を扱うデータセンター
のネットワークは、今後も強化そして再構築されていきます。
アンリツは自社内に保有する無線から有線までのテストソリューションを進化そ
して再構築し、新しい通信ネットワークを支えていきます。

[当面の光デジタル関連測定需要]

- ① 光ファイバー敷設工事の増大に伴う建設保守用の測定需要
- ② スモールセルの敷設工事の増大に伴う建設用やエリア品質保証用の無線測定需要
- ③ データセンター向けなど100Gbps光モジュールの生産拡大に伴う測定需要
- ④ 400GbEなど有線通信の高速大容量化に伴う開発用の測定需要

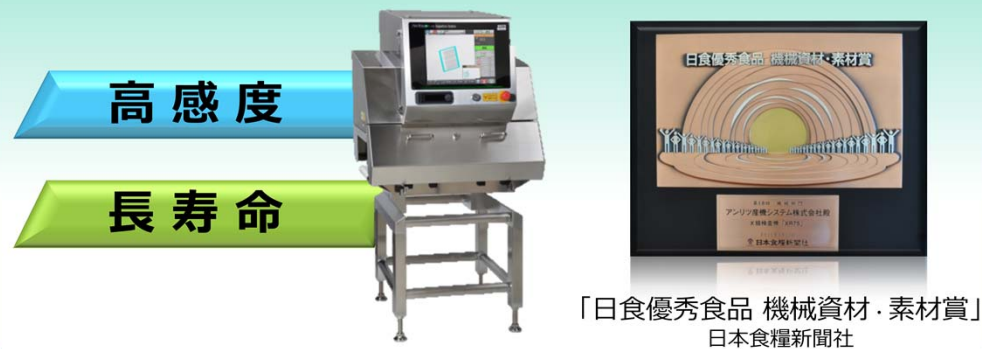
Ⅱ - 2. PQA事業：グローバル展開に向けた取り組み

1. グローバルなブランド戦略の構築

- 「Anritsu Infivis」に社名変更（10月1日付け）

2. 北米市場に新型X線検査機「XR75」を投入

新型X線検査機「XR75」が「優秀食品機械」を受賞



Anritsu envision:ensure

16

Financial Results FY2015Q2
Copyright© ANRITSU CORPORATION

PQA事業は、品質保証の厳格化が設備需要をけん引し、国内市場が堅調です。新型X線検査機「XR75」を北米市場に投入し、下期売上拡大と、海外展開の足固めを図っていきます。「アンリツ産機システム株式会社」は「Anritsu Infivis株式会社」に社名を変更しました。「ワールドクラスの品質保証ソリューションパートナー」として、グローバルな事業展開を加速します。

◇日本食糧新聞社「日食優秀食品機械資材・素材賞」

- ・食品業界における新製品創出や効率化、業界活性化に大きく貢献する機械/資材/素材に授与され、機械部門では数ある製品の中から毎年5点程が選出。2008年度、2012年度に続き3度目の受賞。

◇新型X線検査機「XR75」

- ・高感度で長寿命のX線センサー部を新開発
 - ①X線 保守コスト削減 ②消費電力 削減 ③冷却用エアコン不要で、生涯コストを20%以上削減。

Ⅱ-3. コーポレートガバナンス基本方針の制定

当社は、東証の定める「CGコード」の諸原則を支持し、より良いCGを実現するための考え方と、組織体制・しくみなどを示すとともに、その整備・改善に取り組んでいきます

1. 総則

- 1.1 経営理念・経営ビジョン・経営方針の策定
- 1.2 コーポレートガバナンスに関する基本的考え方
- 1.3 内部統制システムの構築と運用

2. ステークホルダーとの関係

3. 適切な情報開示と透明性の確保

4. コーポレートガバナンスの体制



企業価値向上
利益ある持続的成長

Webサイトに掲載

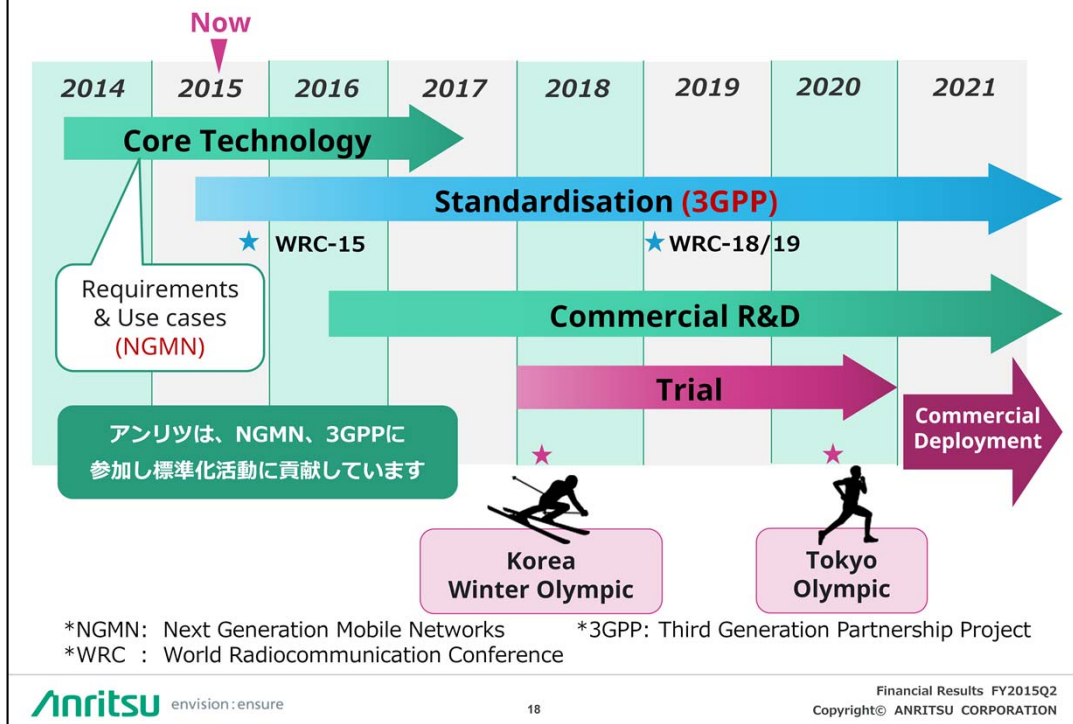
<http://www.anritsu.com/ja-JP/about-anritsu/corporate-information/corporate-governance>

CG: コーポレートガバナンス

「アンリツ株式会社 コーポレートガバナンス基本方針」を制定し、Webで開示いたしました。

当社は、より良いコーポレートガバナンスを実現するための考え方と、それを支える組織体制・しくみなどをすべてのステークホルダーに対し示すとともに、その整備改善に取り組んでいきます。

Appendix. 5G roadmap (CY2015 ~CY2020)



2020年ころの実用化を目指した 5G通信システムについて、現在想定されている実現までのロードマップを掲載いたします。

アンリツはNGMN や 3GPPに参加し標準化活動に貢献しています。

